

1996年2月15日

朝日現代用語  
御担当者様

アルコール問題全国市民協会  
103 中央区日本橋区3-19-3 ヲグヅビル2F  
03(3249)2551  
代表 今成知美

アルコール問題全国市民協会は、アルコールに関する様々な問題について取り組んでいる市民団体です。

さて、本年1月に貴社より発行されました「朝日現代用語'96」の内容の一部に不適切な用語解説がありました。米国精神医学協会(AMERICAN PSYCHIATRIC ASSOCIATION)で出されている「DSM-IV(精神疾患の分類と診断の手引き-医学書院より翻訳本発行)」及びその他の依存症関連の専門書より該当箇所を抜粋して別紙貼付いたしましたので、今後改訂版を作られるときの参考にしていただければ幸いです。

#### P1166 アルコール依存症

「いわゆるアル中ともいわれ、アルコール中毒は長期間にわたる飲酒習慣によって、自分の心身の状態はもちろん、社会的にも害を及ぼす(1)ような状態になることをアルコール依存症というようになった。(2)」  
「・・・このような従来からの依存症に対して、最近問題になっているのは、イッキ飲みと称する急性アルコール依存症。(3)・・・」

- (1)アルコール依存症はアルコールという薬物の過度の使用により引き起こされる疾患の一つですので、心身に害を及ぼすのはご指摘のとおりですが、アルコール依存症により本人が社会生活を送ることが困難になることはあっても、アルコール依存症そのものが社会に対し直接害を及ぼすという表現は不適切です。これは例えて言えば、「糖尿病は社会的にも害を及ぼす」と表現しているようなものです。アルコール依存症が他の疾患と違い治療に結びつきにくいのは、社会から受ける偏見が強いことが、一つの大きい原因です。上記の表現は、この偏見を肯定している表現で、不適切だと思われま
- (2)アルコール依存症は物質関連障害(Substance-Related Disorder)のなかの一つであり、その要因がアルコールの場合を指します。物質関連障害はその期間や状況によって、依存・乱用・中毒・離脱の4種類に分類されており、いわゆるアル中と呼ばれている状態は、依存の部類に入りますので、「アルコール依存症というようになった」のではなく、「アルコール依存症が正しい名称」です。なお、“中毒”とはアルコールという薬物による可逆的な生態反応で、体内摂取直後に起きる反応/状態を言います。
- (3)イッキ飲みによる意識不明/死亡事故はアルコールによる中毒反応により起きた症状ですので、「急性アルコール依存症」とは言わず、「急性アルコール中毒」です。また、イッキ飲みそのものはアルコールの飲み方の通称であり「急性アルコール依存症」ではありません。

「アルコール依存症の親のもとで育ち、心の病を抱えるこども(4)。略して AC」

(4)アダルト・チャイルドまたはアダルト・チルドレンとって、アルコール依存症の親のもとで子ども時代を過ごし、そのことが原因・遠因で生きにくさを感じている成人を指します。現在は、アルコール依存症以外の問題で機能不全になっている家庭で育った成人も AC の中に含まれています。

(この場合は、Adult Children of Dysfunctional Familyと言います。)

ACといわれる人たちには、共通の行動パターンや人間関係作りへの影響が見られます。最近、ACそのものがまるで病気のごとくに誤解されているような表記を新聞等で見かけることがあります。

Adult Children of Alcoholics:

Adults who grew up in an alcoholic home and were affected by the experience. There are those who believe that such individuals share specific behavioral traits, which frequently adversely affect their adult relationships.

— Al J. Mooney, M.D., Arlene Eisenberg & Howard Eisenberg (1992).

*The Recovery Book*, p. 574.

WOMEN PUBLISHING, NEW YORK

アダルト・チルドレン

アルコール依存症者のいる家庭で育った結果、何らかの影響を受けた成人。これらの人の行動には、ある種の特徴があり、それがしばしば大人としての人間関係に不利な影響を与えると唱える(信じる)人もある。